

要 旨

ツクバネウツギ属中の *Zabelia* 節に関し、牧野富太郎博士は分類学的見解から、また Erdtman 博士は花粉学上から独立属に価すると主張された。我々は更に本誌 29 巻 4 号に公表された幾瀬、黒沢両女史の研究と、亘理博士の木部形態学上の新発見とを採択して *Zabelia* 属の設置を認め、これをイワツクバネウツギ属と呼ぶこととし、牧野博士の意志表示を現行命名規約に基き合法化するための処置としてラテン語の記載文をつけ、かつ *Abelia* 属より当然本属に移さるべきものについては必要な新組合せを行った。

○日光地方におけるハイマツの一新産地 (久保田秀夫) Hideo KUBOTA:

The lowest habitat of *Pinus pumila* Regel in Nikko mountain ranges, Tochigi Pref.

日光火山麓に於けるハイマツの生育地としては温泉岳 (2332.2 m) と女峰山 (2463.5 m) が知られている。前者にては山頂及びその周辺にハイマツは小さい群落を形成しているが、ミヤマスズ、チシマザサ等が多く且つ高度が比較的低いために高山植物の種類は乏しい。後者にては山頂とその西及び北東の屋根一帯には広大なる群落があり、高山帯を形成して居り、前者に生ずるウサギギクを除いてキバナジャクナゲ、ウラシマツツジ、イワウメ、イワヒゲ、コメバツガザクラ、ガンコウラン、ツガザクラ、イワオウギ、トウヤクリンドウ、ホソバイロベンケイ、クモマナズナその他前者には生育しないものが多い。

昨年 (1953) 8 月私は女峰山と赤薙山の脊稜を結ぶ中間に位する海拔 2272 m の無名の鈍円峰の頂上にハイマツが数株生育しているのを見た。この峰が日光地方に於けるハイマツの生育地としては最低と思われる。山頂より少し下方はシラビソを主とする密林が続いている。山頂には矮小となつた高さ 2 m 位のオオシラビソ、シラビソ、コメツガや灌木状になつたミヤマハンノキ、ダケカンバ、タカネザクラ、ナナカマド等が僅かに生育してハイマツはこれらと混生しているのである。なおハイマツの附近にはシロバナジャクナゲ、クロウソゴ、オオバスノキ、サラサドウダン、コヨウラクツツジ、コケモモ、ガンコウランを始めとしてヒメイチゲ、ツマトリソウ、ミツバオウレン、セリバオウレン、アキノキリンソウ、イワカガミ、タカネヌカガ等が生育していて亜高山帯最上部の植生と思われる。

(東大植物園日光分園)